**鵜戸 – 国指定名勝**

森林に覆われた鵜戸崎は、千年以上にわたって旅人から支持されてきました。岬の海岸線には、数百万年前の地殻変動によって形成された奇妙な形の岩や巨岩が点在しています。大昔、この地で人々を最初に魅了したのは、これらの岩や海岸沿いにある複数の洞窟でした。初期の訪問者の多くは宗教的な苦行者で、彼らは孤立した場所で長期間過ごすことによって精神修養をするためにやって来ました。組織化された宗教の発展、特に日本での仏教の普及は、その後、こういった神聖な場所に神社や寺院を建立することにつながりました。現在鵜戸神宮という神道の崇拝地となっている鵜戸に設立された聖域は、1200年の歴史の中であらゆる地位の信者を魅了してきました。天皇家の神聖な起源にまつわる古代神話とも関連があるこの神社は、今日でも祈りの場として人々の支持を集めています。

古代の巡礼者を驚かせた岩や巨岩は、現在、地質学者によって研究されており、彼らは硬い砂岩と柔らかい泥岩が混ざった鵜戸の断崖が、少なくとも800万年前に形成されたと推定しています。特に興味深いのは、岬の南側の海から突き出た筋状の岩場です。地元では「鬼の洗濯板」として知られ、残っている砂岩と侵食された泥岩の層の硬度の違いによって、この岩場は独特の形となりました。2017年、日本政府はこの岬を国指定名勝として、鵜戸の際立った歴史と地質を評価しました。